

2025年3月9日午前10時30分  
 受難節第1主日 主日礼拝  
 司会 畠中祥世  
 奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)  
 前奏  
 招きのことば ヨハネ 15:5  
 讚美歌 298「ああ主は誰かのため」 一同  
 交読詩編 91:1-16(P.105/101)

祈り 司会者  
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫  
 本庄教会 本庄旭教会  
 (主の祈り)

讚美歌 300「十字架のもとに」 一同

聖書 旧約:ヨエル 2:12-14(P.1423)  
 新約:マタイ 4:1-11(P.4)

メッセージ『パンに頼らず生きてゆく』  
 祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 284「荒れ野の中で」 一同  
 < 聖餐式 (讚 312・1-3 節) >

献金 一同  
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのタナー キャンドル消火) 一同

頌栄 24  
 祝禱 川上 盾 牧師  
 後奏  
 報告・紹介

<招きのことば>ヨハネ 15:5  
 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

≪3月礼拝当番≫ 畠中祥世 岩瀬デボラ  
 小林友栄 奈良正太郎  
 鈴木容子 (徳江由利)

≪今週の集会・行事≫

- ◎ 本日 14:00 群馬地区総会 (送別会)
- ◎ 11日(火)午前 赤城育心子育て支援センター 教会訪問 (12日の育心こども園の教会訪問は無くなりました)
- ◎ 11日 東日本大震災の日  
 被災地を想い起し、覚えて祈りましょう。
- ◎ 14日(金) 10:00 群馬地区婦人部総会
- ◎ 15日(土) 10:00 会堂清掃 A 組
- ◎ 15日(土) 牧師、清心幼稚園卒園のつどい

≪次週の主日≫

◎ 主日礼拝 10:30  
 メッセージ『神の国は来ている』  
 聖書:旧約:申命記 30:15-20(P.1423)  
 新約:マタイ 12:22-32(P.22)

讚美歌 297,294, 392, 25  
 交読詩編 130:1-8(P.149/145)  
 司会:田村 啓 奏楽:金井文子

◎ 教会源 10(最終回) 礼拝後

≪予告≫

- ◎ 群馬地区青年のつどい 19-20日 渋川教会
- ◎ トーク&ハーブのつどい 29日(土)14:00

≪報告≫

◎ レント第1主日です

レント(受難節)が始まりました。イースター(復活祭)までの日曜日を除く 40 日間(7週間)。イエス・キリストの十字架への歩みを覚えながら、克己・修養の時として過ごしましょう。本日はレント第 1 主日ですので、イエス・キリストの十字架への歩みを覚えて、主の食卓を囲みます。

◎ 永山友美子さん トーク&ハーブの集い

整理券は終了しました。ご協力ありがとうございました。29日のつどいと、30日の礼拝をお楽しみに。

◎ 群馬地区総会 & 地区婦人部総会

本日午後、地区総会が行われます。地区長はじめ、地区委員の選挙が行われます。また今年「地区の宣教協力に関する件」の議案審議がなされます。無牧師の教会を地区全体で応援しようという提案です。14日には地区婦人部の総会が行われます。役員の引き受け手が見つからず、現会長の徳島恵子さんは大変苦勞しておられます。よき道が開かれることを祈ります。

◎ 教会外観の絵・イラスト募集中(3月末〆切)

3月に入りました。応募を考えておられる方は仕上げをお急ぎ下さい。コンテストではありませんので、気兼ねせずに奮ってご応募下さい。

≪消息≫

◎ 木俣 修さん… 6日、老年病研究所附属病院を退院され、ナーシングホームあい暖(川曲町)に移られました。今後はこちらで過ごされます。容態は落ち着いておられるとのこと。

≪先週の集会≫

主日礼拝	礼拝堂		オンライン	献金
	昼	夜	計	
聖研祈禱会	7	4	11	
	全体	当教会	計	
世界祈禱日				

《メッセージ》「安らかに信頼すること」川上牧師  
 イザヤ 30:15-17, マタイ 14:22-33(3月2日)  
 ▼混乱の中で不安と動揺が広がる...そんな時は、その人が何者であるか、普段何を考えて生きているか、その本性が現れる。▼私の子どもが小さい頃、少し大きな地震があった。私は思わず妻・ゆり子に「早く！子どもを守れっ！」と叫んだ。机の下から...何のことはない、咄嗟の時は子どもよりも自分の身を守る情けないヤツだということが露呈してしまったということだ。▼危機の時どう振舞うか...今日の旧約(イザヤ30章)にはそのことが記されている。敵対するアッシリア軍が押し寄せるという中で、「走って逃げよう、馬に乗って逃げよう」と慌てふためいて行動する者は、逆に追われることになる。それはまことの信仰者の姿ではない、と。▼ではどうすればいいのか？イザヤは語る。「立ち帰って静かにしているなら救われる。安らかに信頼するところに力がある」と、敵が攻め込んでも逃げてしまわない、ということか？地震で机の下に潜って身を守ってしまわないのだからか？そうではない。▼問題はそのような行動を起こす時の「心のありよう」なのだ。慌てふためき、うろたえ、焦って行動する...それは結局「自分の力でなんとかしよう」としている姿だ。そこに留まる限り、安らかな信頼の境地は訪れない。▼自分の力で何とかしようと行動するのではなく、神に信頼し委ねながら行動する...実際には逃げもい、急ぎ行動することがあってもいい、けれども心の中は安らかに安心して事に当ること...これは咄嗟に出来ることではない。普段から自分を過信せず、神に委ねて生きようとしているか...それが咄嗟の時に現れるのである。▼新約はイエスと弟子たちとの湖上の舟の上での一コマ。イエスが弟子たちだけを舟に乗りこませて向こう岸に行かせ、自分は祈るために山に登られた。舟は強い風に阻まれて、プロの漁師がいたにも関わらず難航していた。▼するとそこにイエスが水の上を歩いて近付いて来られた。最初弟子たちは幽霊だと思い、恐怖を覚えたが、イエスだと分かると安心し、ベトロに及んでは水の上を歩いてイエスに近づくことができた。ところが強い風を思い出し不安がよぎると、沈みそうになった。イエスは「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか！」とたしなめられた...▼このエピソードには混乱の中で不安と動揺を覚える人間の姿が象徴されている。舟が沈みそうになる苦難の時も、共におられるイエス、天から見守る神を信じて、委ねて歩む大切さが示されていると思うのだ。▼第2時大戦中、ナチスに抵抗した『告白教会』の一員であったK.バルトは、ナチス時代から冷戦期までの困難な時代を「楽しんで生きた達人」と評価される。彼のモットーは「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」ということであり、「治められているよ」というのが口癖だったという。だからこそ苦難の中でもうろたえず、安らかに信頼し、そしてユーモアをもって世界と向き合えたのだ。